

ChatGPT に聞いてみた



「談合の席に女性が 50%いたら談合をするか」

ChatGPT:

非常に現実的かつ鋭い問いです。
要点を簡潔にまとめてお答えします。

✅ **結論:**

女性が 50%いたからといって談合(カルテル)が必ず防がれるわけではありませんが、発生する可能性は統計的には低くなる傾向があると考えられます。

🔍 理由と背景:

1. 研究が示す「倫理的抑止効果」

- 一部の実証研究では、女性が多い会議体や委員会は倫理違反の発生率が低いという結果が出ています。
 - 例: 女性取締役が増えると、企業の会計不正・内部統制違反・汚職のリスクが下がる (Harvard Business School、Catalyst などの研究)
- 談合は「密室での信頼と共謀」によって成立しますが、女性がいることで空気が引き締まり、監視の目や倫理観が働きやすくなる可能性があります。

2. 性別による価値観の違い(平均傾向)

- 女性は一般的に「関係性」や「社会的評価」「ルール」への感度が高い傾向。
- 「バレたらどうなるか」「社会的信頼を失うのではないか」といった観点から、不正にブレーキがかかりやすい。

3. 多様性のあるグループは“共謀”しにくい

- 男女問わず、多様な価値観が混ざると「空気を読んで同調する」圧力が弱まり、不正な決定が通りにくくなる。
- 同質性の高い男性ばかりの場では、「わかってるよな」「これが業界のやり方だ」的な同調が生まれやすい。

⚠ 重要な注意点:

- 性別だけでなく、「参加している女性の役職」「影響力」「倫理観」も重要です。
- 形式的に女性が 50%いても、発言権がなければ抑止力にならない。
- 談合は経済合理性と利益誘因で動くため、「性別だけ」で完全に防げるものではありません。

💡 要するに:

女性が 50%いる談合の席では、不正が“やりにくなる”雰囲気生まれやすい。だが、最終的に談合が行われるかどうかは、その人たちの権限・倫理観・リスク認識次第である。